

環境調査時の安全対策について

発注者 新庄河川事務所
施工者 東北緑化環境保全株式会社
業務名 新庄河川事務所管内鳥類生態調査
発表者 ○現場代理人 運天 さつき
管理技術者 木村 啓



1. はじめに

本業務は、広域な管内6流域22地区で年間を通して猛禽類現地調査を実施する環境調査である。

調査は、年間を通してそれぞれの地区で調査を行う必要があるため、季節によって起きうる危険（夏や秋のハチ刺され、冬の雪道運転）や地点ごとの危険（崖崩れ・雪崩、工事現場付近での調査、電波が入らない箇所での調査）が考えられ、その季節・地点ごとの適切な安全管理が必要である。

以下に実施している安全対策等について示す。

2. 安全に業務を実施するための取組

(1) 社内での安全教育

当社では、社員はもちろん、協力業者も含めて安全対策用品の使用方法や安全対策についての教育を実施している。また、社員は月に1回、『安全ミーティング』を行い、当現場も含め全業務の現場でのヒヤリハットや社員の健康状態について、情報交換・注意喚起を行っている。

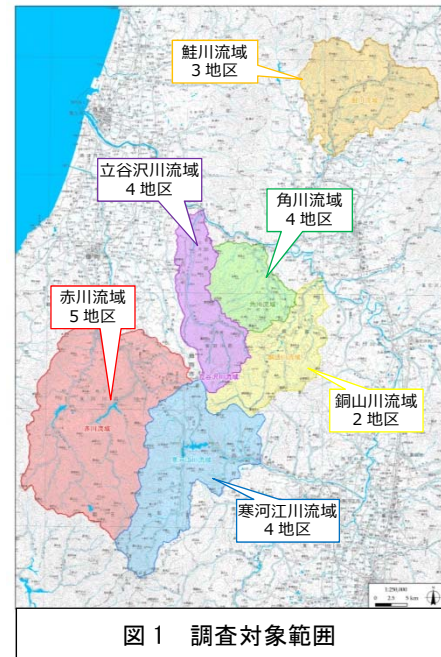


写真1 安全対策についての教育の様子

←左：安全対策用品（ビーコン）の使用方法についての教育
左：安全対策について発表

(2) 調査開始と終了時の安全ミーティング

全時期・全地点の調査において、調査開始時と終了時に調査員で集合し、安全ミーティングを行っている。開始時のミーティングでは、調査員の健康状態や安全用品のチェック等を行い、終了時のミーティングでは、調査地点に向かう道中の危険箇所の報告やその他のヒヤリハットがあったか

どうかについて話し、翌日同地点に入る人に情報共有を行っている。



調査開始時のミーティングでは、安全チェックシートを活用

表1 安全チェックシートの活用

項目	内容	確認
作業計画	作業計画が作成されているか	○
作業手続	作業手続が作成されているか	○
作業場所	作業場所が安全であるか	○
作業時間	作業時間が適切であるか	○
作業人数	作業人数が適切であるか	○
作業内容	作業内容が適切であるか	○
作業方法	作業方法が適切であるか	○
作業器具	作業器具が適切であるか	○
作業環境	作業環境が適切であるか	○
作業安全	作業安全が確保されているか	○
作業健康	作業健康が確保されているか	○
作業事故	作業事故が発生していないか	○
作業報告	作業報告が適切であるか	○
作業記録	作業記録が適切であるか	○
作業評価	作業評価が適切であるか	○
作業改善	作業改善が適切であるか	○
作業完了	作業完了が適切であるか	○

(3) 現場での安全対策

現場で起こりうる危険とその対策として実施していることの例を以下に紹介する。

- 熱中症対策等健康管理…野外での調査のため、夏場は熱中症になる危険がある。その対策として、帽子の着用や、木々で陰になる場所を確保してからの調査実施、水分補給の徹底を行っている。また、調査地点に入っている人同士で無線機による定期的な会話を設け、声の状態等によって安全・健康状態を確認している。
- ハチ刺され・クマ対策…協力業者の方も含め、調査を行う人は皆、ハチ抗体検査を実施している。ハチ抗体がある人には、エピペンの所持を義務づけている。また、クマ対策として、クマ鈴及びクマスプレーを配給し、着用している。
- 工事現場付近での調査…工事現場の中または、工事車両が通行する場所で調査を行う際は、ヘルメットの着用を義務づけている。また、工事現場の走行時は、昼間でもライトの点灯を行う。
- がけ崩れ・雪崩対策…崖崩れや雪崩が発生しやすい地区での調査時はビーコンを所持する。
- 電波が入らない場所での調査…調査前に無線機の確認を十分に行う。また、衛星携帯を携帯する。
- けがや事故発生時のために…けがや事故が起こらない・起こさないことが第一だが、もしもの発生時に備え、現場付近の病院・警察署・消防署等の場所や電話番号を図示し、配布している。

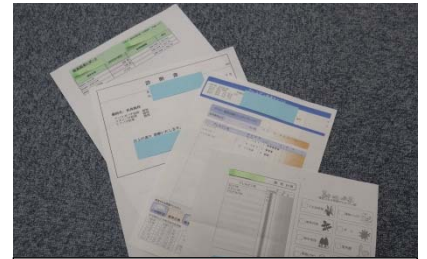


写真3 ハチ抗体検査の実施の徹底



写真4 ハチ抗体検査の実施の徹底

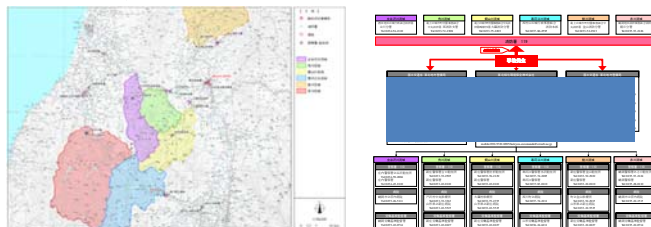


図2 配布している病院等の位置及び連絡先

3. 最後に

今回紹介した安全活動に加え、個人個人でも「ゼロ災」を意識した結果、本業務では無事故で現場を終了できた。今後も安全第一でより良い調査に取り組んでいきたい。